第5章　尚巴志活用MPの事業方針

5－1. マスタープランの特色

(1)なぜ尚巴志の物語が必要か？

本マスタープランは、地元の英雄・尚巴志を人材育成や文化振興、まちづくり、観光振興等に活かしていくために策定するものである。現代に「尚巴志の物語」が必要な理由を、以下のようなストーリーに込めて表現する。

長い間、人類はより良い生活を求めて旅を続けてきました。そして私たちの祖先は、今から1万年以上も前に生活の場として南城の地を選択しました。私たちは長い時の中で育まれた命の連鎖の担い手です。

人類が在る以前に太陽や地球は在り、絶え間なく起こる自然現象が地形や気候を作ります。そしてそこでは様々な動植物が生息しています。これらは人類の存在に影響を与える条件となります。この条件と付き合いながら生活していく中でその土地ならではの文化が生まれます。これは時間軸において変遷し、垂直的関係、水平的関係で比較を行うことによって価値が生まれます。

この価値こそ今を生きる私たちの財産です。しかし、しばしば私たちはそれを忘れてしまいます。18世紀の産業革命によって、人類は巨大な力を手にしました。技術革新は進み利便性や効率化ということをとことん追求するようになりました。特に戦後の高度経済成長においては低コストで利潤を追求した大量生産が盛んに行われるようになりました。人は労働力として生産ラインに投入され、言われたことをそつなくこなせる画一化された能力が求められました。いつしか都市と田舎の役割分担はバランスを失い、限界集落や超高齢化社会、コミュニティの希薄化などの問題を生みだしました。重ねて、廃棄を踏まえない大量消費は処理システムのキャパシティを簡単に超え、地上にゴミが溢れ出ました。このまま市場原理主義を突き進めるほど地球は万能ではありません。そんな中、私たちは東日本大震災を経験しました。原発の問題も重なり、社会が2つに割れました。

南城市ではその20日前に市民ミュージカル「太陽の門（ていだぬじょう）」を上演しました。そのテーマ曲にこんな歌詞があります。

「今も昔も変わらない　めぐりめぐる命の時間　生きること　今ここに生きること」

歌詞は、人の命の尊さとその普遍性を語りかけています。存在の尊厳は考えて行動することにあります。そこには目的があり、意思があり、葛藤があります。今の社会の在り方が正しいのか。間違っているとすれば私はどうすべきなのか。今を生きる私たちには絶えず選択が求められます。

実は、南城市の歴史において、自分を信じ一歩を踏み出して夢を成し遂げた人物がいます。それが尚巴志です。先見力や人を思いやる気持ち、判断力を擁し、三山統一を成し遂げ琉球王国を建てました。

一方、南城市民の中にも自ら社会において問題意識を持ち、行動を起こして何かを成し遂げようとする人たちがたくさんいます。そこには尚巴志スピリットが宿っていると考えます。この小さな物語は南城市のいたるところに点在し、南城市を元気にしていきます。特に最近は、市民大学をはじめとした人材育成機関で地域興しの人材が育まれ、南城市というフィールドにどんどん飛び出しています。そして点在した物語どうしがリンクした時に効果は何倍にもなります。これを俯瞰した時、一人ひとりに宿る尚巴志の物語を

自然・歴史・文化から成る南城市という舞台で市民が演じ、プロのスタッフと市民ボランティアが支え、生きたメッセージを受け取る観客がいるように見えます。まるでシュガーホールの市民ミュージカルです。

そこで、私たちはそれぞれに宿る尚巴志の物語を、しっかり南城市という舞台で上演できるように脚本的位置づけの尚巴志活用マスタープランを策定しました。

ここでは歴史上の英雄尚巴志の具体的な姿は登場しません。しかし、まるで尚巴志のようだと感じられる市民の魂は至る所に登場します。つまり、史実に縛られたり、歴史上の人物像に迫るのではなく、今を生きる私たちと尚巴志のポジティブな共通点を探し、未来志向で活かしていくということです。

私たちは祖先から何を受け継ぎ、次の世代へ何を託していくのでしょうか。琉球開闢神話のまち南城市は、過去と対話しながら未来を創る作業の場として相応しい場所です。今この南城市に必要なものは市民一人ひとりが輝きながら、生きるということを真剣に考えられる計画です。

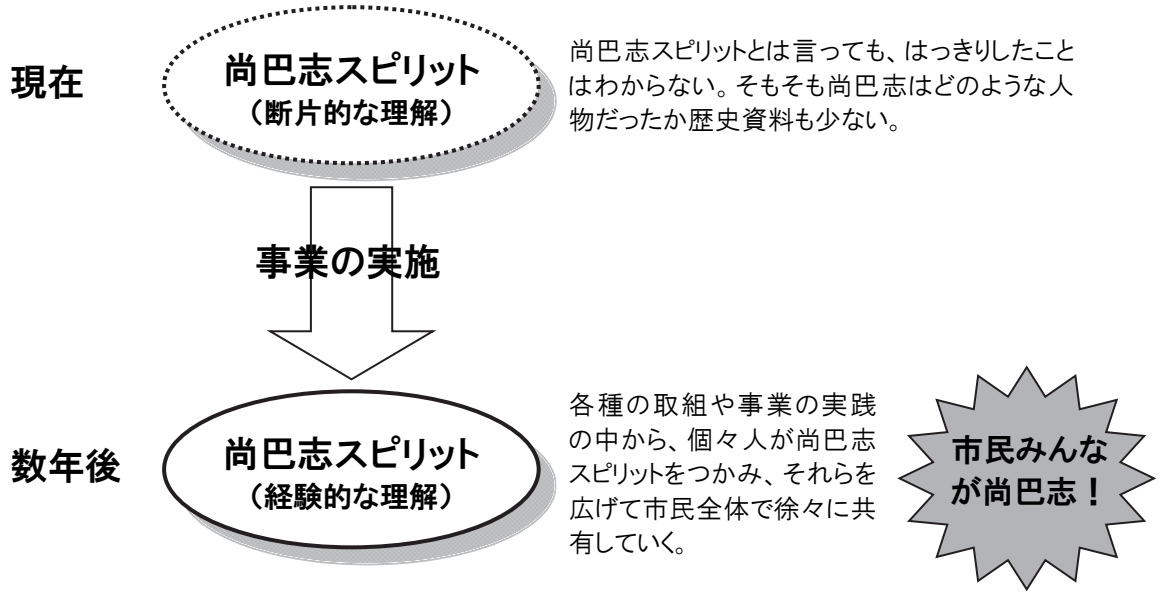
(2)尚巴志活用MPにおける尚巴志スピリット

重要なのは「尚巴志スピリット」を受け継ぐことであり、本マスタープランは、市民一人ひとりがそれぞれの考え方で地域おこし・まちづくりに一歩踏み出すことを「尚巴志スピリット」と捉え、そのための人材育成や受け皿づくり、発信を行っていく事業計画とする。言葉を変えれば、尚巴志の生き方や考え方、想いをシンボル化し、現代に活かしていく取り組みである。

尚巴志スピリットとは；
市民一人ひとりがそれぞれの考え方で地域おこし・まちづくりに一歩踏み出すこと

尚巴志スピリットを継ぐ市民に対して	歴史文化をよく知らない市民に対して
● 南城市の歴史において、自分を信じ、一歩踏み出して夢を成し遂げた尚巴志というアイコンの存在。 ● 尚巴志は先見力、人を思いやる気持ち、判断力を擁し、三山統一を成し遂げ琉球王国を建てた。	● 尚巴志はおろか地元の歴史や文化をよく知らない、方言の意味もわからない世代が中心になりつつある。 ● このまま「文化的に薄められた地域」になると、地方自治体として没個性化してしまう。 ● せっかくの歴史力、文化力が失われる。
● 現在の南城市にも、問題意識を持ち、自ら行動を起こして何かを成し遂げようとする人々がいる。 ● そこには尚巴志スピリットが宿っている。 ● 尚巴志スピリットをもっとアピールし、市民に広げていく必要がある。	●「尚巴志」を旗頭にして、地域の歴史文化を知る事業を展開・市民公募し、独自の歴史文化に根ざした「濃い地域」を目指す。 ● 自らが企画する・行動する事業を通して、尚巴志スピリットを市民の間に育てる必要がある。

市民は「すでに尚巴志スピリットを持つ人」から「尚巴志どころか歴史文化をよく知らない人」まで幅広く、本マスタープランの事業を実施する中で、尚巴志スピリットを持った人材が育つ環境をつくる。つまり、将来的に「市民みんなが尚巴志！」である社会を目指す。



（3）尚巴志活用MPの性格

本マスタープランは、法律に基づく法定計画ではなく、任意の個別計画の扱いであり、今後更新されるかも未定である。総合計画のように網羅的である必要はなく、南城市らしい重点施策・事業に特化することが可能である。

なにより確実に事業化されるプランであることが第一で、地方分権社会をにらんだ地域課題解決型の事業を立案する必要がある。また、市民協働型事業のマスタープランであるべきで、事業を適正に配置することで各地域のエリアマネジメントを活性化し、住民が主体となって各種事業や活動を実施する自律した地域を育てていく。立ち上がりは沖縄振興特別推進交付金を活用することを想定しているが、将来的には補助金に頼らない経営体制を築いていく。

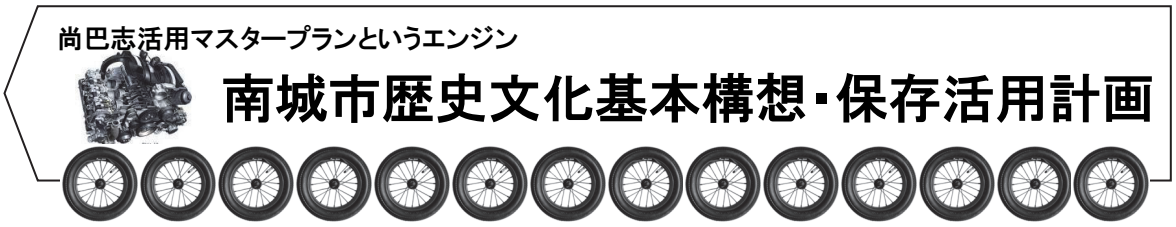
もうひとつ、本マスタープランの策定は教育委員会文化課が窓口であり、文化財の保全・活用だけの計画ではないものの、平成22年度に策定された「南城市歴史文化基本構想・保存活用計画」を前に進めることが求められている。

（4）南城市歴史文化基本構想を動かすエンジンとしての役割

平成23年3月に策定された「南城市歴史文化基本構想・保存活用計画」は、地域住民にとって大切な文化財を、指定・未指定にかかわらず幅広く把握し、文化財をその周辺環境まで含めて総合的に保存・活用するための構想であり、本市の文化財保護に関するマスタープランとしての役割が与えられている。この背景にある考え方は、文化財を単体として保存・活用するだけでなく、地域の歴史、風土や文化環境も含めて総合的にとらえ、まちづくりや地域の活性化などに活かしていくというものである。そのため、地域の住民やNPO法人、企業などの民間団体と、所有者や地方公共団体との連携協力を図ることを位置づけている。

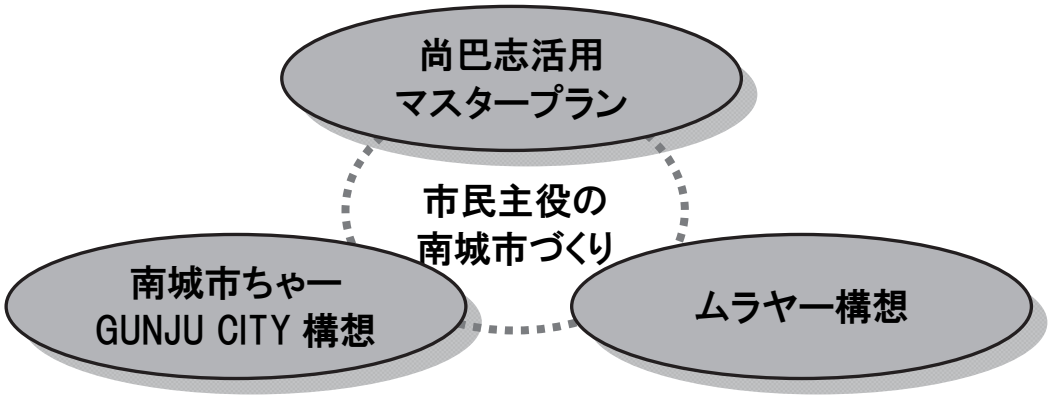
この構想・計画では、13の歴史文化保存活用区域を位置づけ、先行的・集中的に文化財の保存・活用に取り組むとされているが、平成25年度の段階では、指定文化財整備や「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」等の文化庁予算、沖縄振興特別推進交付金（一括交付金）等を用いた事業が一部の地域で進められているものの、全体的な停滞感が否めない状況である。

本マスタープランは、この構想・計画を具体的に進めていく仕組みと組織体制、具体的な事業等を位置づける役割を有する。詳しくは後述するが、特にエコ・ミュージアムの考え方の中に、歴史文化保存活用区域の今後の展開について最定義し、文化財保護＋アルファという形で地域の文化遺産の保全と活用を進めていく。



(5)現在進行形の2事業との連携・役割分担

本市では現在、環境にやさしく少子高齢社会に対応する環境未来都市を目指す「南城市ちゃーGUNJU CITY構想」と「ムラヤー構想（仮称）」に向けて取り組んでいる。本マスタープランはこれらの２事業との関連性も高く、相互の連携や役割分担が求められる。



①ちゃーGUNJU CITY構想との連携・役割分担

- クロスファンクション会議や市民ワークショップで出された意見は、ちゃーGC構想のビジョンと重複するものが多く、役割分担が必要である。特に尚巴志スピリットを人にフォーカスする意見は、ちゃーGC構想のテーマで「共存・共助・共栄」としてすでに位置づけされている。
- ちゃーGC構想は、行政が重点分野（環境、健康、産業等）を定め、公募・提案型事業導入で計画的・効率的にまちづくりを進めることが目標とされている。
- よって本マスタープランは、ちゃーGC構想との役割分担の中で、歴史文化面での南城市らしさとして「尚巴志」に着目し、「尚巴志の物語づくりから人づくりへ、そして地域づくりへ」を実現する構想と捉えることが可能である。

②ムラヤー構想との連携・役割分担

- ムラヤー構想は、沖縄振興特別推進交付金を活用した自治公民館整備（改修）を図るとともに、自治公民館を拠点に様々なソフト事業（観光客の誘客及び交流事業、伝統文化の保

存・継承事業、地域活性化に関わる事業、農林水産業等の振興に関する事業、健康づくり事業や介護事業）を行い、コミュニティづくりを実現することが目標である。

- よって本マスタープランは、このコミュニティづくり事業と連携して、地域資源を活用したイベントや、文化財＋アルファの企画を実現する。

5－2. マスタープランの全体像

(1)尚巴志活用MPのメッセージ

南城市では平成26年度から、本マスタープランに基づき、歴史文化をいかしたまちづくりをスタートさせる。市民参画型のまちづくりは本市においても着実に進行しているが、文化財保護の面では十分な広がりがみられず、地域の住民と文化遺産との関係性の希薄化が危惧される状況である。よって、地元の英雄・尚巴志を題材にして、「自分たちの歴史文化は自分たちで工夫しながら受け継ぐ」という意志のもと、市民参画をうながし感動を分かち合う事業を進めていく。

市民がそれぞれの考え方でまちづくりに一歩踏み出し、日常生活に充実感・一体感を持つまちとなることを目指して、市民の「挑戦する心」をテーマに、本マスタープランでは以下のメッセージを打ち出す。

【本マスタープランのメッセージ】

南城市はみんなの未来を描くステージ。今を生きる尚巴志の物語を創ろう！

一人ひとりに宿る尚巴志の物語を、自然・歴史・文化から成る南城市という舞台で市民が演じ、市民や市役所職員のプロデューサー人材とボランティアが支え、生きたメッセージを受け取る観客がいる。尚巴志活用マスタープランは、「市民のやる気を引き出す・協働を促す脚本」である。

(2)尚巴志活用MP流　三本の矢

①「尚巴志」の普及・啓発・情報発信施策

地域の資源や魅力を見直し、地域への愛着心の醸成や地域づくりへの動機づけを図る目的のもと、尚巴志の掘り起こしを含めた地域学から始め、得られた尚巴志像を広く発信し、南城市のまちづくりに興味を持ってもらう施策。「尚巴志を知る」「地域の歴史文化を知る」という知る過程、「新しい尚巴志像を創る」「地域を再創造する」という創る過程、「本マスタープランを発信する」「尚巴志スピリットを広げる」という広げる過程までを含んでいる。

市共通の課題としては、尚巴志スピリットの掘り起こし・共有化があり、各地域の課題としては、各地域の歴史文化資源や郷土の人物等の掘り起こしがある。

②地域おこしの人材育成施策

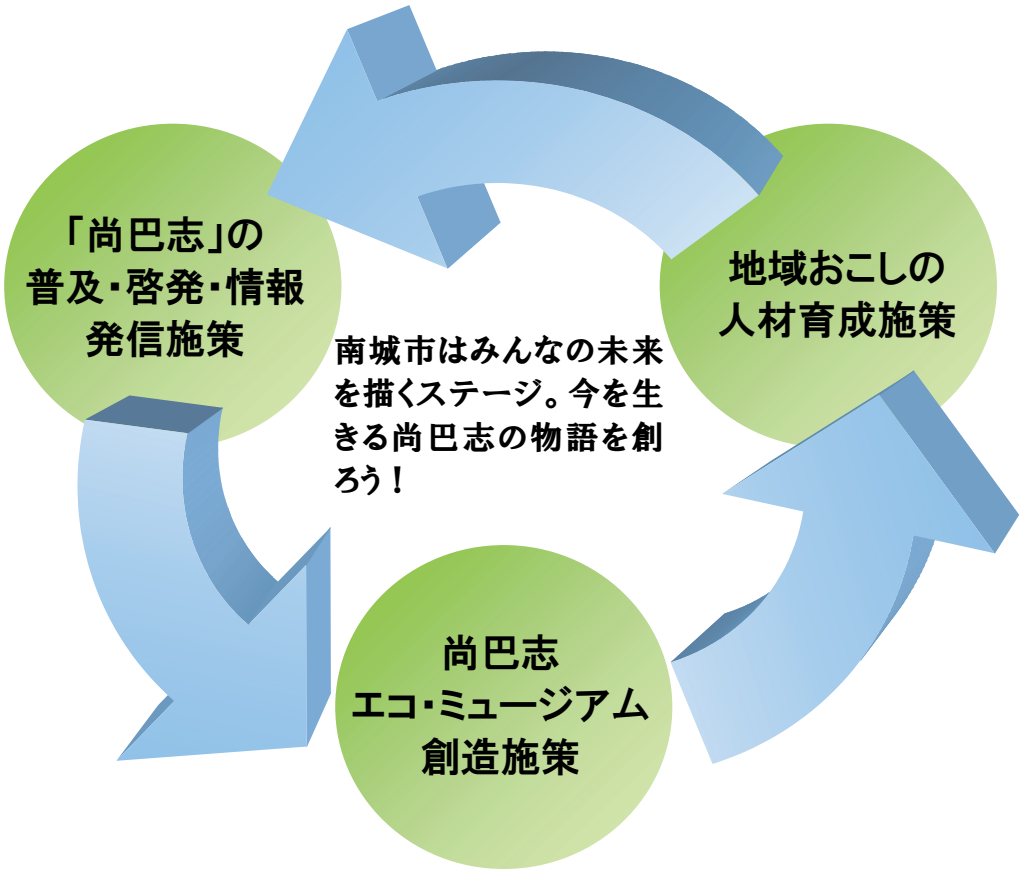
従来行ってきた社会基盤の整備といったハードの「地域開発」ではなく、人間の価値観や行動様式といったソフトの「地域力開発」に関わる政策である。

志を高く持ち、三山統一という壁にトライし、見事成し遂げたという尚巴志のチャレンジ精神を見習い、市民のやりたいことを応援するなかで、尚巴志スピリットを持った人材を育てる。南城市を知る教育と、南城市を興すという発想が必要であり、自然・歴史・文化を土台とした教育と、イノベーションの連続を定着させる取り組みを行う。また、学ぶだけではなく実践するための行動力を養う。

③尚巴志エコ･ミュージアム創造施策

琉球王国を興し、間切制度など統治システムを築いた尚巴志の偉業に倣い、エコ・ミュージアムという切り口で、歴史文化遺産をはじめとした地域の価値を再発見し、磨き上げネットワークしていく。本マスタープランは日常生活に充実感を与えるという使命を持つため、各地域の公民館や広場、文化財、その他公共空間を舞台にした事業を展開する。

「歴史文化基本構想」を基礎として、様々な分野のレイヤー（魅力の層）を重ねて、コア・ミュージアム～サテライト・ミュージアムを見出し、ディスカバリー・トレイルでつなげるイメージである。



75ページに尚巴志活用マスタープラン事業体系図を掲載する。ただし、事業名は仮またはイメージであり、このツリー図自体も固定ではなく、必要に応じて事業内容を修正したり関連事業を随時追加していくものである。また、定期に行う事業評価の際にも、必要に応じた見直しを図ることを位置づける。

尚巴志活用マスタープラン事業体系図

政策	施策	事業	細事業（案）	事業内容	事業イメージ、効果等	CF会議・市民WSの意見等
尚巴志活用マスタープラン	「尚巴志」の普及・啓発・情報発信	マスタープラン普及事業	〃	「市民に広げよう尚巴志の和」をスローガンに、本MPを市民に紹介するイベントを開催する。	MPのパンフレット、子ども向けの紙芝居等を制作し、各所で計画の普及及び意見吸い上げ、協力人材の把握を図る。	尚巴志をもっと知ってもらう
		関連資源ブラッシュアップ事業	佐敷上グスク整備事業（既往事業）	文化庁事業を進めるとともに、情報提供や体験学習の拠点となる施設（尚巴志歴史館）を整備する。	ソフト事業と合わせて展開し、歴史館の管理運営を地元で担えるように体制を整える。（例：真栄田岬管理施設）	佐敷上グスクの整備をする／佐敷上グスクに舞台をつくってイベント開催／精進料理を食べる会／ガイドツアー＆琉歌をよむ会
			尚巴志王陵移設事業	読谷村伊良皆（基地内）にある尚巴志らの墓を県・読谷村と共同で調査し、遺骨を分け、佐敷ようどれに再安置する。墓の分祀は古式に則り、儀式兼イベントとして大々的に行う。	効果として、尚巴志の墓の知名度アップ、佐敷ようどれの知名度アップが図られる。	佐敷ようどれの知名度を上げる／読谷にある尚巴志のお墓の知名度を上げる／読谷の尚巴志のお墓から骨を分骨する／月城の宮を復元する／尚巴志の墓を佐敷に移す
			第一尚氏最期の地整備事業	富里、當山にある尚布里や尚泰久に由来するグスクや墓を調査し、その情報を整理・公開するとともに、各資源を結ぶトレイルやサイン等を整備する。	第二尚氏時代に封印・抹殺された第一尚氏の歴史を正しく掘り起こし、普及することで、尚巴志の関連資源の深まりが得られる。	文化財の活用
		尚巴志ストーリー共感・創造事業	〃	「広めよう尚巴志、深めよう知識」をキーワードに、尚巴志について歴史に基づく知識を多様な切り口で蓄積する（女性から見た尚巴志等）。それだけでなく、史実＋αで新たな尚巴志像を描く事業を実施する。	尚巴志についての「しゃべり場」（トークセッション）や尚巴志絵画コンテストの開催、ショートフィルムや児童劇の創出等の尚巴志イメージを広げる事業を行う。事業のアウトプットとして学校教材や絵本・紙芝居、肖像画、演劇、映画等のコンテンツが得られる。	本／尚巴志なぞなぞ／紙芝居／絵本／漫画／読み聞かせや歌／「犬を捨てないで！育て犬です」／尚巴志の演劇／小学校の授業に取り入れる／尚巴志しゃべり場／大河ドラマのテーマに／「広めよう尚巴志、深めよう知識～現・尚巴志王を誕生させよう～」／星座をつくる／劇団四季やシルクドゥソレイユで上演／カルタづくり
		尚巴志冠イベント事業	尚巴志まつり創出事業	8月4日を尚巴志の日と位置づけ、尚巴志イケメンコンテスト、尚巴志の業績をモチーフとした事業等を行う。	刀を農具に変えた伝説の復元イベント、中国との交易をモチーフにした外国人の歓待式、行列の再現等。	ミスター尚巴志・ミスあまみきよ／尚巴志まつりの復活／刀を農具に変えた伝説の復元／第一尚氏をイメージした仮想行列の再現
			尚巴志FESTA事業	尚巴志マラソンの付属イベントとして実施。	記念の箸（巴志）の贈呈、デザインTシャツの配布、バスのラッピング、入賞者写真展示、フラッシュモブ等。	尚巴志マラソンの勝者に箸を贈呈／バスに尚巴志のイラストラッピング／フラッシュモブ
			尚巴志杯スポーツ大会事業	尚巴志を看板としたスポーツイベントの創出、内容見直しを図り、スポーツを通した市民交流を促進する。	各種の学校スポーツ行事、門中運動会等。	尚巴志杯（南城市所属のスポーツチームによる大会）
			クラブ尚巴志事業	尚巴志の統率力を見習うもので、誰もが家族のような関係を築くため、市民同士の交流機会を増やす。	具体的には、婚活イベント、街コン（浜コン）、尚巴志ゆかりのトゥシビー祝い（21歳・34歳・57歳）の創出等。	クラブ尚巴志（婚活クラブ）／クラブ尚巴志で生まれたカップルの結婚式を佐敷で行う／子供や高齢者・仕事をしていない女性の居場所づくり
	地域興しの人材育成	尚巴志スピリット人材育成事業	目指せ！尚巴志、輝け！南城っ子育成事業	尚巴志の志を次世代に継承するため、幼少の頃から尚巴志や市の歴史文化に触れる機会を創出する。	イノベーションの連続を定着させる取り組み。学ぶだけではなく実践するための行動力を養う。	犬と鳥に育てられたという逸話を子育て法に活かす／部下に優秀な人材／やるときはやる／時代を読む策／時間や空間を繋げる橋／おれがやるんだ／親孝行は大切だという心意気／死んだ後にも語られるには／フロンティア精神／三山統一の志を南城市に位置づける／鉄の製造というイノベーション／外との付き合い方論／低身長でもいいじゃないかという心意気／児童劇団／尚巴志をもっと知ってもらう
			尚巴志塾事業	尚巴志が琉球の歴史や発展に貢献した業績等を継承していくための学習・企画開発活動を行う。	なんじょう市民大学や大学ゼミとの協働。各公民館での持ち回り開催も可。	
			尚巴志人材育成事業	好奇心や価値観を広げる教育機会を作り、それらの人材を海外に派遣することで実践力を養わせる。	尚巴志の精神を受け継ぎ、コミュニティに主体的に関わる人材が輩出される。人材のプラットフォーム化。	
			ガイド育成・スキル向上事業	ガイドの会の活動を広げ、琉球史を語るプラットフォームとなる。また尚巴志ゆかりの地ツアーを開催し実地訓練する。	小中学校に、専門家や地域古老等を派遣し、尚巴志や地域の歴史文化について学ぶ特別授業を実施する。	ガイドの育成／ガイド用シナリオづくり／ガイドのアイドル化／「尚巴志の名もなき部下がおくるグダグダミュージアム」
			尚巴志グッズ開発・産業人材育成事業	尚巴志グッズを開発する。尚巴志となんじいのコラボ商品の開発や、なんじいと絡めたものがたりづくりを行う。	販売のチャネルとして物産館に尚巴志コーナーを設置し、限定グッズを開発する。プロモDVDを制作する。	使え！省箸／尚巴志パン、そば、スイーツの開発／ストラップ、Tシャツ、饅頭、泡盛／物産館に尚巴志コーナーを設置／宣伝DVD
		平和発信シンボル事業	〃	三山統一し、平和を構築した尚巴志の業績に倣い、平和を考える団体との協働事業や表彰を行う。	アブチラガマ等での追体験、戦争体験を聞く等を通して、戦争の記憶を継承する。	平和を考える団体や平和発信のシンボルにする
		尚巴志ゆかりの地交流事業	〃	尚巴志が交易を行った中国、捕虜返還をした韓国、東南アジアの国々との青少年交流事業を行う。	アジア青年の船事業がモデル。既往の海外短期留学やESLキャンプとの連携も視野。	南城市が独自に外国と貿易／中国との交流／外国人歓待式／プレゼン隊
	エコ・ミュージアムの創造	コアミュージアム創出事業	デジタルミュージアム創出事業	インターネットで南城市のエコミュージアムを紹介するポータルサイトを構築し、コンテンツを制作する。	デジタルハイビジョン撮影、デジタル教本、東御廻りアプリ開発、各遺跡の往時の再現CG制作等。	東御廻い追体験システム／子ども向けスマートフォンアプリの開発／VR・ARの活用／ログイン機能／有料コンテンツ／クエスト
			アナログミュージアム創出事業	エコミュージアムの拠点となる施設を位置づけ、オリエンテーション機能を付与する。	知らない人が興味を持つ仕掛けが必要。稲作集落の復元。既存施設や観光・商業施設の一画を活用しても可。	尚パークミニ／図書館をつくる
			尚巴志歴史館（仮称）整備事業	尚巴志に関する情報提供や体験学習の拠点となる尚巴志歴史館等を佐敷上グスク近くを候補に整備する。	ワンボックスカーを改修して移動ミュージアムにする。観光客に「尚巴志パスポート」を配布し、加盟店で割引等。	尚巴志歴史館をつくる／尚巴志の資料づくり／尚巴志マラソン勝者の写真を資料館に掲載
		サテライトミュージアム育成事業	〃	サテライトとなる市内各地域の魅力度向上、組織形成・人材育成を住民参加で実施。	文化財の修復・整備、文化財を活用したソフト事業、観光誘客事業、ムラヤープログラム事業、サイン整備等。	ヤブサツの浦原健康づくりサテライト／歴史を感じるJAZZ night in Itokazu／雄樋川クリーンアップサテライト／佐敷上グスクをより深く知るサテライト／佐敷知名度UP／佐敷の地形を利用した健康促進・体力向上／佐敷で環境学習をするサテライト／大里パワーUPサテライト／うふざとタイムスリップサテライト
			グスクコンサート巡回事業	佐敷上グスクはじめ各地域のグスクに舞台をつくってイベントを行う事業を巡回する。	グスクをライトアップした演奏会や野外フェス等。	文化財の活用
			文化遺産地域サミット実施事業	孫会議、南城市文化遺産サミットを開催する。ムラヤー構想と連携して進める。	孫会議は「孫の世代に負の遺産を残さない」という目標を持てば、意識の共有が図りやすいという趣旨。	孫会議／賢い人材を育成するためのムラヤー塾
		ディスカバリートレイル整備事業	ツアープログラム企画制作事業	市内の観光関連事業者やガイドの会、大学ゼミと連携して、尚巴志ゆかりの地を巡る観光モデルコースや歴史体験プログラムを作成し、モニターツアーを実施する。（モデル構築後は民間に委譲）	ワークショップでグリーンマップ作り、各集落のむらまーい事業、既存イベントと連携したツアー企画等。観光商工課や観光協会と連携して推進。	星空観察／三山統一ツアー／尚巴志ハートバスツアー／南城市の自然を活かしたツーリングプログラム／久高島ナイトウォーク／尚巴志縁の地を巡るツアー／首里城と南城市のグスク等をつなげるバスツアー等。
			交通インフラ環境整備事業	市内の交通環境の改善、トレイル整備、サイン整備等を行う。	道づくりでは地域住民の参画を促し、ストーリーやオブジェ、植栽にもこだわる。	尚巴志魂よ～大志を抱け／尚巴志バス
		エコミュージアム運用事業	エコミュージアム活用イベント創出事業	エコミュージアムを紹介し、参加して楽しむためのイベント事業を創出する。	地域文化財活性化事業、生活体験事業（グリーンツーリズムとタイアップ）、文化遺産と野菜のコラボ事業等。	南城まるごとﾕｰﾓｱﾐｭｰｼﾞｱﾑ構想／歴史資源ｳｫｰｸﾗﾘｰ／伝統芸能体験会／伝承の読み聞かせ／琉球絣を着てムーチーづくり
			南城市版おもてなし武将隊実施事業	観光客のお出迎え・観光案内・記念撮影などの「おもてなし」の他、イベントやメディア等でのPR活動を行う。	尚巴志はじめ南城市ゆかりの人物を取り上げる。	尚巴志おもてなし武将隊／CDデビュー

5－3. 各事業の具体的イメージ

(1)「尚巴志」の普及・啓発・情報発信施策

①マスタープラン普及事業

【概要】

本マスタープランを市民が知り関心を持ってもらうために、市民が主役となって教材をつくり公演や読み聞かせ等の活動を行ったり、「市民に広げよう尚巴志の和」をスローガンにして市民に紹介するイベントを開催したりするなどの普及活動を行う。また、こうした活動を通じて市民とふれあい、市民参加に意欲的な人をリストアップし、人材のネットワーク化につなげる。

【事業効果】

本マスタープランの理解が深まり、尚巴志が本市のシンボルとして再評価され、地域の誇りが醸成されるようになる。また、マスタープランに自分が参加・協力できることは何かを考えるきっかけが生まれ、市民参加の機運が高まる。

【事業派生・連携の可能性】

例① 市内の有志グループが行っている紙芝居活動に、尚巴志を題材として取り上げてもらい、小学生に尚巴志まちづくりのワクワク感を理解してもらう。

例② 巴志の絵本を読んで聞かせることで、幼い頃から尚巴志に親しみ、その功績や人柄を意識する人になることを期待する。

例③ 本市に生まれた赤ちゃんを対象に、尚巴志の絵本とメッセージカード等をプレゼントする。

②尚巴志関連資源ブラッシュアップ事業

【概要】

尚巴志及び第一尚氏に関わる資源を発掘・再発見し、その価値が正しく伝わるように整備・磨き上げを図る。具体的には、国指定史跡となった佐敷上グスク（文化庁予算にて整備中）はもとより、尚巴志によって攻められたグスク、斎場御嶽や久高島、各地の殿等の聖地、馬天港など従来は尚巴志との関わりがあまり意識されなかった資源に対し、史実に基づく魅力あるストーリーを与えて、文化遺産への愛着や新たな理解が深まるように仕向ける。富里や當山の尚巴志の子孫にまつわる資源も同様である。

【事業効果】

尚巴志は知っていても、地域が輩出した英雄・偉人であることが市民に深く根づいていない状

況を改善することが期待される。また、資源等の整備が図られ、その価値がひとつのストーリーとして示されることで、観光客など琉球の歴史に詳しくない者も理解が容易になり、訪れる動機が強まると予想される。

【事業派生・連携の可能性】

例① 読谷村伊良皆に所在する尚巴志の墓について、学術的な調査ののちに、分骨するなどして佐敷ようどれに最安置する事業をイベントとして実施する。

例② 富里・當山の第一尚氏関連資源を尚巴志に関連付けて改修・整備・ネットワークし、ツアーや体験プログラム等の場として活用する。

例③ 尚巴志の施策に由来する御新下りや久高行幸等の行事を、那覇市や与那原町などと連携して、歴史に忠実に再現し内外にアピールする（一部は実施済み）。

③尚巴志ストーリー共感・創造事業

【概要】

市民の豊かな創造力を糧として、共感を呼ぶコンテンツづくりを進め、新たな尚巴志像を描く事業を実施する。共感する→確認する→参加する→共有・拡散するという順番で事業を広げ、尚巴志の知名度を高めていく。

【事業効果】

尚巴志の物語を演劇、映画、教材（副読本）、絵画、絵本、カルタ、アプリなど様々な媒体で表現することで、市民の創造力や行動力がアップし、自分たちが育てた尚巴志像という愛着が生まれ、総合的な市民力の獲得につながる。そうした市民が多数生まれることで、まちづくり・地域おこしの核となる人材ネットワークが充実する。

【事業派生・連携の可能性】

例① 尚巴志を題材にした絵のコンクールを行う。琉歌（サラリーマン琉歌の新ジャンルも）や作曲、ラジオ体操などでも実施可能。半島芸術祭とのコラボも考えられる。

例② 尚巴志スピリットを現代に再現した物語を創出し、ショートムービーやフォトストーリー、ゲームコンテンツやアプリ等で表現するコンテストを開催する。

例③ 尚巴志をテーマにした史劇「翔べ！尚巴志」の事業効果を高めるためにはどうしたらいいかを話し合うワークショップを行い、史劇の事業手法やパブリシティを工夫して、地域の継続的な事業として継承する。

例④ 場天ノロなど尚巴志を支えた女性の視点で尚巴志像をとらえなおすなど、新たな切り口での尚巴志のストーリーを探り、テレビ番組やネット配信等の手段で伝える。

④尚巴志冠イベント事業

【概要】

イベント名の前に「尚巴志」の名を冠のように付けることで、尚巴志を認知してもらう絶好の媒体とする。尚巴志の冠イベントは現在、「尚巴志マラソン」しかないが、新旧のイベントにこれを拡大する。

【事業効果】

従来のイベント効果に加えて、尚巴志というブランドの普及・広報が図られ、南城市の魅力の奥行きがより深くなる。

【事業派生・連携の可能性】

例① 8月4日を「尚巴志の日」と位置づけ、尚巴志の業績をモチーフとしたイベントを実施する。または既存イベント（南城市まつり等）を衣替えする。

例② 認知度が高い「尚巴志マラソン」にイベントを付加するなどして、もっと尚巴志の要素を加えた形にアレンジする。記念の省箸（＝尚巴志、エコ運動のひとつ）の贈呈、尚巴志デザインＴシャツの配布、送迎バスの尚巴志ラッピングなど。

例③ 武芸に優れた＝スポーツ万能だった尚巴志にちなみ、尚巴志を看板としたスポーツ大会を実施する。地域ごとに得意なコミュニティ・スポーツを育成するとともに、スポーツを通じた社会関係の維持・向上、住民・市民交流を促進する。

例④ 市民同士の交流機会を広げる事業として、婚活支援事業、街コン事業、同窓会事業（尚巴志ゆかりのトゥシビーに実施）、スポーツ地域リーグ事業等が考えられる。

(2)地域おこしの人材育成施策

①尚巴志スピリット人材育成事業

【概要】

尚巴志のような創造性や行動力、気概を市民に根づかせ、様々な分野や局面でリーダーシップが発揮できる人材を輩出する土台づくりを進める。

【事業効果】

地域を愛し地域をよくしたいと考える人材が多数育つことにより、地域の活力が高まり、まちづくりや地域おこしに取り組む人の輪が広がっていくことが期待される。また、能力ある人材の育成は、雇用効果、産業振興等にも結びつく。

【事業派生・連携の可能性】

例① 尚巴志の志を次世代に継承するため、幼少の頃から尚巴志や市の歴史文化に触れる機会を創出する。小中学校の総合学習の時間に、専門家や地域古老等を派遣し、尚巴志や地域の歴史文化について学ぶ特別授業を実施する支援を行う。単に学ぶだけでなく、実践するための行動力を育てることがイノベーションの連続を定着させることにつながる。

例② なんじょう市民大学や大学ゼミと協働し、尚巴志について学び想像・創造する講座を、自治公民館等を活用しながら各地域で開催するなど、尚巴志を知る草の根運動を展開する。

例③ 現在の歴史ガイドの活動を広げ、新たなガイド希望者の教育・ノウハウ習得、既存のガイドの中からリーダー研修等を行いながら、琉球史を語るプラットフォームとなるようにデザインしていく。

例④ 尚巴志グッズや土産品等の商品開発を、プロモーション活動、販売経路の拡大等のモニタリングを含めて実施する。また、尚巴志となんじぃと絡めた物語を創出し、なんじぃとのコラボ商品の開発にも取り組む。これらをプロデュースできる人材育成も並行して行う。

②平和発信シンボル事業

【概要】

三山統一し平和を構築した尚巴志の業績に倣い、平和の心を将来につなげる目的で、戦争の記憶継承プログラムの企画・実施、平和団体との協働事業、平和関連の表彰事業等を行う。

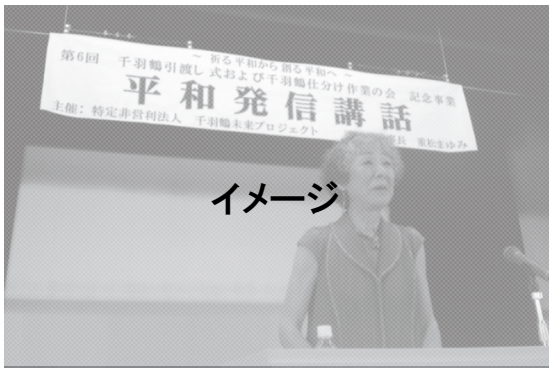
【事業効果】

沖縄戦の記憶を継承することが、平和を希求する精神の醸成につながると考えられる。戦争の悲惨さや人命の尊さを再認識し、戦争の事実を風化させることなく、平和な社会を創造していくことのできる力を育てる。

【事業派生・連携の可能性】

例①　市内・県内だけでなく、世界のあらゆる地域で平和構築に貢献できる人材を育成するため、海外派遣・研修、難民の受入等の事業を行う。

例②　子どもが多かった尚巴志の遺志を受け継ぎ、地域で安心して子どもを産み育てる環境をつくるため、子育て中の男女及び妊婦等への教室の開催、家庭相談等の支援及び環境整備事業を行い、平和であることの素晴らしさを発信する。



③尚巴志ゆかりの地交流事業

【概要】

尚巴志は中国や東南アジア等と海外交易を行い、また懐機や李藝のような要人と交流するなど万国津梁の礎を築いた。そうした歴史背景を踏まえ、「アジア青年の船事業」をモデルに、関係国との青少年交流、移民先の国、戦時疎開先の地域との交流を行う。また、民間事業者と協力して、中国、東南アジアからの外国人観光客の誘客促進、交流プログラムの企画開発に努める。

【事業効果】

地域間の国際交流が図られ、自治体の知名度が向上するとともに、交流によりお互いの理解を促すことで、青少年の国際的視野を広め、次世代の人材を育成する。

【事業派生・連携の可能性】

例①　市内在住の小学生・中学生を対象に ESL（第 2 言語としての英語）キャンプ・プログラム、海外短期留学プログラムを実施する。姉妹都市である宮崎県高千穂町等の国内の姉妹都市間の児童交流事業を行う（どちらも既往事業）。

例②　尚巴志が訪れたり交流をしたりした国々と新たな交流を結ぶ。

例③　本市を訪れたり興味を持って調べたりする外国人向けに、本市を PR する情報媒体の多言語化を行う。

(3)尚巴志エコ・ミュージアム創造施策

①コアミュージアム創出事業

【概要】

エコ・ミュージアムで地域を紹介する拠点となるコアミュージアムを整備・創出する事業である。コアミュージアムは通常、施設として整備されるが、デジタルとしての可能性も検討し、よりよい形で南城市を体験できるようなオリエンテーション機能を付加する。

【事業効果】

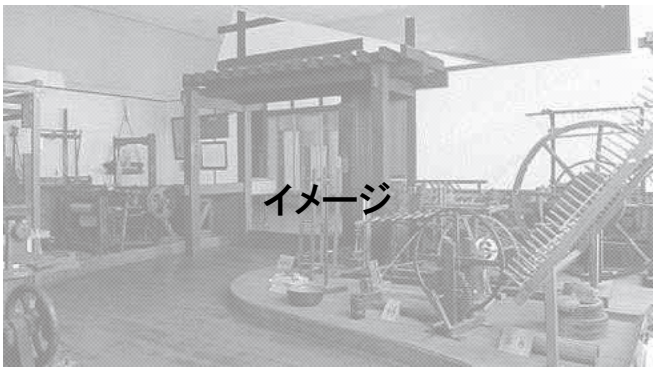
エコ・ミュージアムの来訪及び本市における観光行動・体験活動等を総合的に把握し、目的に沿った形で誘導・ネットワークすることで、満足度を高めることができる。

【事業派生・連携の可能性】

例① インターネットで南城市のエコ・ミュージアムを紹介するポータルサイトを構築し、コンテンツを制作する。デジタルハイビジョン撮影、デジタル教本、東御廻りアプリ開発、各遺跡の往時の再現 CG 制作等が考えられる。

例② エコ・ミュージアムの拠点となる施設を位置づけ、オリエンテーション機能を付与する。後述する尚巴志歴史館がその機能を代行することもできる。

例③ 尚巴志に関する情報提供や体験学習の拠点となる「尚巴志歴史館（仮称）」を、佐敷上グスク近くを候補地として整備する。



②サテライトミュージアム育成事業

【概要】

野外の展示を担うサテライト拠点の形成を図る事業であり、市内各地域の魅力度向上、地域における受け入れ組織や人材の育成につながる事業を組み合わせて実施する。具体的には文化財の修復・整備、文化財を活用したプログラム運用、地域における観光誘客モデル事業等が挙げられる。東京等の消費地側にもアンテナショップを兼ねたサテライトを設けることも検討。

【事業効果】

景観や生活環境を改善することは地域の魅力を向上させることにつながり、住民の主体的な取組を後押しすることで自発性や行動力の向上に寄与することができる。

【事業派生・連携の可能性】

例① コミュニティ・ベースド・ツーリズム（集落に基盤をおいた観光）について集落ごとに考え方をまとめていく。防災や福祉、子育ての要素も加えて、どういう地域を目指すのか（集落版総合計画の作成）、どこまで見せてどこからは見せないかなどを明確化する。住民と観光客

をつなぐ役割として大学ゼミ等に参画してもらい、グリーンマップ等の手法を用いてまとめながら住民の意識づけを図る。

例②　各地域のグスクに舞台をつくりライトアップするなどして、演奏会や野外フェス等の音楽イベントを巡回して行う。

例③　「孫の世代に負の遺産を残さない」という目標を持って、文化財の保全と活用を考え、意識の共有を図る「南城市文化遺産地域サミット」を開催する。

例④　稲作が尚巴志躍進の基盤であったことから、当時の稲作集落を復元・再現した空間整備を目指し、尚巴志が生きた時代の学習素材として活用する。また、単に上物整備とならないように、ロケ地や特産品開発・販売など現代的な機能を加えた多機能型とする。

例⑤　現在実施の自宅の庭の公開に加え、民家にある石垣やヒンプン等の石造建造物、拝所や石、屋敷林、家譜、祭祀道具等を、訪問者にみてもらったり住宅の一角に展示したりする。実証実験を経て、本格的に自宅を開放できる場合は改修費用を市が負担する等の措置が必要。

③ディスカバリートレイル整備事業

【概要】

ディスカバリートレイルとは、コアとサテライトあるいはサテライト相互をつなぎ、地域の魅力の再発見へと導く小道である。従来の観光資源単体を巡るのではなく、それらをつなぐ道中も楽しむための環境整備を行う。

【事業効果】

地域への来訪が点ではなく線から面へと広がり、提供できるプログラムが多様化され、滞留時間が延びることで観光収益性も向上する。また、住民が主体的に取り組むことで地域をマネジメントしようとする意識が高まる。

【事業派生・連携の可能性】

例②　観光協会、市内の観光関連事業者、ガイドの会等と連携して、尚巴志ゆかりの地を巡る観光モデルコースや歴史体験プログラムを作成し、モニターツアーを実施する。モデル構築後は民間に委譲する。

例③　市内の交通環境の改善、トレイル整備、サイン整備等を行う。道づくりでは地域住民の参画を促し、トレイルのテーマや歩く際のストーリー展開を考え、オブジェ、植栽など景観や楽しみの要素にもこだわる。

④エコ・ミュージアム運用事業

【概要】

エコ・ミュージアムを紹介し、市民が参加して楽しむためのイベント事業やプログラム体験事業等を実施し、その模様をインターネットやSNSを通じて発信する。

【事業効果】

エコ・ミュージアムについて体験的に理解し、交流をとおしてホストとゲストがつながる機会が生まれる。運用を通して地域のファンが増えれば、賛同者の寄付や支援企業の協賛等が集まり、自立的な運営基盤の形成が促進される。

【事業派生・連携の可能性】

例① エコ・ミュージアムを広く知ってもらうためのグリーンツーリズムや野菜、食文化、スピリチュアルとのコラボなど、一見ミスマッチな要素をつなげて新たな商品価値を生み出す事業等を行う。

例② 観光客のお出迎え、観光案内、記念撮影等のおもてなし活動の他、イベントやメディア等での PR 活動を行う。「武将都市ナゴヤ」を広報するために結成された名古屋おもてなし武将隊をモデルにして実施。